

巫女と八二巾

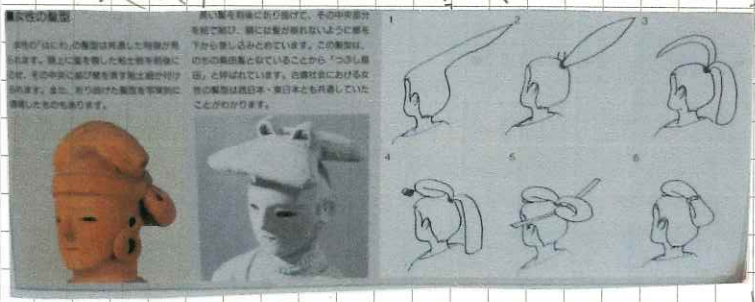
前橋市五桂萱東小学校 6年 1組 齋萌萌衣

このテーマを選んだ理由

私は、昔の民族衣装のことが気になり、調べてみようと思いました。

調べたこと

巫女の八二巾から民族衣装の特ちょうや、装飾品を調べます。①巫女のはにわ



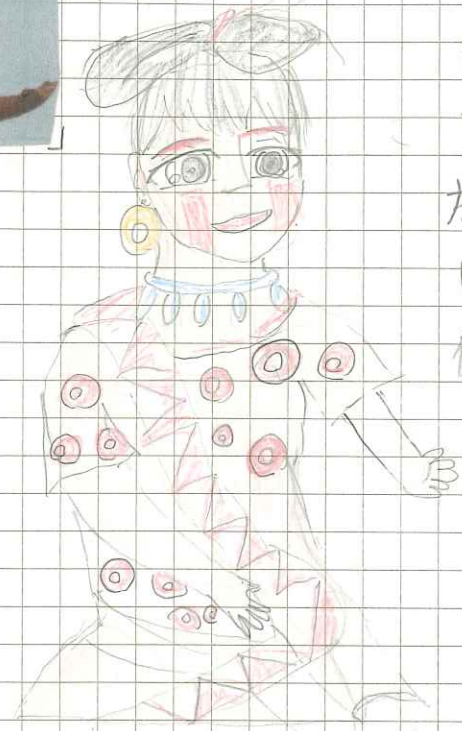
女性の「はにわ」の髪型は共通した特徴が見られます。頭上に髪を模した粘土板を前後にのせ、そ

の中央に結び緒を表す粘土紐が付けられます。また、折り曲げた髪型を写実的に表現したものもあります。長い髪を前後に折り曲げて、その中央部分を紐で結び、額には髪が崩れないように櫛を下から差し込みとめていきます。この髪型は、のちの島田髷と似ていることから「つぶし島田」と呼ばれています。古墳社会における女性の髪型は西日本・東日本とも共通していたことがわかります。



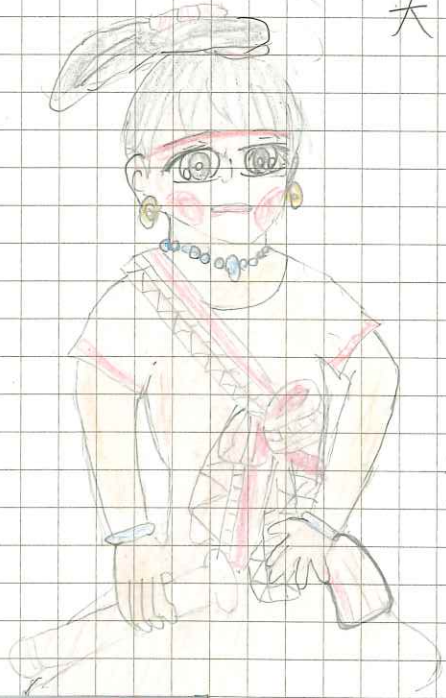
たすきがけの巫女

用文をちらした上衣を着て、きよ歯文様の彩色を施した幅広の袴を身につけています。顔に赤色の化粧をして、左手で環を捧げ持つ巫女の姿を表しています。



大刀を持つ巫女

胸の前で蝶結びにしたきよ歯文様の描かれた袈裟を着たすきをして、腰に香袋をさげています。右手に頭椎大刀を持つ姿は、祭祀に臨む巫女の立ち姿を表しようです。

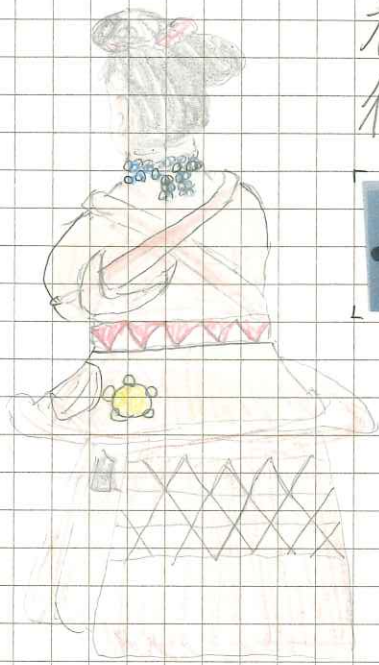


環を持ち椅子に腰をかける女

ついでし島田の髪を結い、顔を赤く化粧をし、二連の首飾り、耳輪、腕と足に玉で飾り、彩色模様のたすきを右肩から腰にかけて垂らし、幅広



の帯をめぐらしています。巫女として祭祀の中心的役割を果たしていたようです。腰には鏡鏡香袋をさげて、左手に坏を捧げ持っています。



椅子に腰をかける巫女
後ろに鈴鏡がさがっています。



この二つの持ちようからが
しるす。実は、

② 古墳時代の豪族の神マツリ



新田町にある中溝深町遺跡には、小さな銅鐸形の鐘や鏡などをはじめとするまっりの道具も見つかっています。古墳時代前期のものなのですが、同じ時期の集落

は、少し離れた場所にあるため、この遺跡は集落を支配した豪族のための特別な場所にあたるのではないかと考えられています。古墳時代のなかほの豪族居館として有名な群馬町の三ツ寺遺跡では、館の外にある泉から、館の中につくられた石敷きで囲まれた木のうづらまで、木の桶を使って水を引き込み、そこで神マツリを行っています。

② 前二子古墳から発見された装身具

装身具には、銀製空玉子、金製耳環2、滑石製管玉1、滑石製白玉1、碧玉製管玉2、ガラス製緑色小玉17、ガラス製黄色小玉28、水晶製丸玉15、ガラス製青色丸玉451、がありました。



装身具

古墳時代の巫女

西日本の巫女

東日本の巫女

東と西の巫女

綺麗な
シンプル
装身具
みかど

とにかく
派手

装身具はお
ジャラジャラ

女の服装の
違いがある
ことを知り
ました。

長方形の布を使う
に終服を着用
清楚



参考

【参考】
2009年 福岡県立歴史博物館 福岡10周年記念展
4. 土器時代、はじめの農耕-古代社会からのメッセージ-
36. 新編式目録の古墳時代の巫女-11代-中継の巫女と上代
2009年 福岡県立歴史博物館 福岡10周年記念展
【参考】
1. 古墳時代の巫女-11代-中継の巫女と上代
2. 古墳時代の巫女-11代-中継の巫女と上代
2013年 福岡県立歴史博物館 福岡10周年記念展
5. 古墳時代の巫女-11代-中継の巫女と上代

調べて分かったこと

- 巫女がつづし島田という髪方をしていふことを知りました。
- 巫女のハニヤを見て、自分で書いてみて、大きな帯があったり、耳かざりをつけていたこととも知りました。
- 神まつりに使われる銅鐸形の鐘や鏡などが見つかって、たいてい水を引いた所で神まつりをやることも知りました。
- 前二子古墳から発見された装身具には、九種類もの装身具が見つかって、すごいなと思いました。
- 古墳時代の巫女は、東西で、服装の違いがあることを知りました。

感想

- 古墳時代の巫女がどんな髪方でどんな服装をしていたのか、東西で、服装の違いがあることを知れて良かったです。

参考

- 「はにわの本」 東洋館出版
- 「東国大豪族の威勢大至古墳群(群馬)」
- 「古墳時代II(集落) 群馬の遺跡たち」